

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	力学リテラシー（Introduction to Phsics）		
ナンバリングコード	B10501	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎(教育)科目 / 基礎レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 年 / 前期
必修・選択区分	選択		
	※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A032404	クラス名	2Q
担当教員名	池畑 義人、有吉 雄哉、池見 洋明、家鋪 真衣		
履修上の注意、 履修条件	【履修条件】 第2クォーターは、第1クォーターで基礎学力講座・数学に認定された学生のみが受講できる。 または、プレイスメントテストにおいて基礎学力講座・数学の受講を免除された学生のみ受講できる。		
教科書	高校と大学をつなぐ穴埋め式力学（KS物理専門書）講談社		
参考文献及び指定図書			
関連科目	基礎学力講座・数学、微分積分1、微分積分2、線形代数1、線形代数2等、その他、各学科の力学系の専門科目		

○基本情報		
授業の目的	力学の知識は、航空・機械工学分野では材料力学や流体力学、建築分野では構造力学や環境工学で必要となる。高校の物理を履修した学生は力学について学習してきているが、この講義では微分積分の基礎を使って高校の物理とは異なる視点から力学について解説する。 この講義では力学の仕組みについて理解することが目的であり、演習は各自の自宅学習で行うことが求められている。そのため授業中に問題演習の機会は少ないことに注意すること。	
	物理学は、現実の世界でおこる様々な自然現象を数式を使って表現する学問で、その内容は力学、熱力学、電磁気学、量子力学などの分野に細分される。ここでは、それらの分野の中で、主に機械電気工学科、建築学科、航空宇宙工学科の専門科目で必要となる力学について学習する。主な内容は単位と次元、速度、加速度、力のつり合い、力学的エネルギー、運動量、力のモーメントなどの項目である。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100%)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー①】	身の回りの運動を力学と関連づけて理解する	10%	10%	
【ディプロマ・ポリシー②】	技術者としての専門知識を身につけるための基本である力学の各分野に関する知識を理解している	30%	20%	
【ディプロマ・ポリシー③】	力学の知識を組み合わせ、複合的な問題を解答できる	30%		

※教養教育科目及び教職科目については大学DP、専門科目については各学部DPIに準じています。

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)

取り組みの内容により総合的に評価します。達成水準の目安は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他
講義で扱う内容に関しては、前期開講(1Q)の力学リテラシーと同様の内容です。
講義スライドは、毎授業後クラスルームにアップする。 欠席した際は、休んだ回の講義スライドを各自確認し、次の授業以降に当日受験予定だった小テストの追試を受けること。 可能な限り授業中に演習問題に触れるので、最低でも扱った問題は解けるよう復習すること。 この科目では、小テストと課題による評価を行います。詳細は初回講義で説明します。
4号館1Fのアクティブラーニング室(AL室)にて、物理に関する質問を受け付けているので 講義内容などの質問等があれば気軽に来てください。 (AL室の奥におられる事務の方に物理の質問がある旨を伝えてください)

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	力学リテラシー（Introduction to Physics）	授業コード	A032404
	担当教員	池畑 義人、有吉 雄哉、池見 洋明、家舗 真衣		
学修内容				
1. スタートアップ				
教養基礎科目の構成と専門科目の関連について解説する。				
予習	スタートアップセミナーの資料、および学生便覧を熟読する			約2時間
復習	今回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
2. ガイダンス・物理量と単位				
本講義の評価方法について説明する。				
物理学を学ぶ上で単位と次元についての知識を欠くことはできない。また、解析の精度の評価も不可欠である。この回の講義では、単位と次元、および精度を評価するための有効数字について解説する。				
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む			約2時間
3. ベクトルの基本演算と座標表示				
ベクトル表記は物理学で必要とされる位置をあらわすための大切な道具である。この講義ではベクトルの演算と座標について解説する。				
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む			約2時間
4. 粒子の速度・加速度				
速度と加速度という物理量について解説する。速さと速度は物理学では意味の違うものである。また、平均の速度、加速度と、瞬間の速度、加速度についても理解を深める。運動を表すのに使う x-t グラフと、v-t グラフについてその利用方法についても学ぶ。				
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む			約2時間
5. 等加速度運動				
前回到引き続いて、加速度一定の場合の運動について解説する。				
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む			約2時間
6. 自由落下運動				
地球上の物体は常に重力によって鉛直下向きに引かれている。それゆえ物体は一定の加速度g(=9.8m/s ²)で落下する。このgのことを重力加速度という。このgはニュートンの万有引力の法則より導き出される。この講義では、このような重力加速度を用いて自由落下運動と投げ下ろし問題について解説する。				
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む			約2時間
7. 運動の法則				
この講義ではニュートンの運動の3法則について解説する。第1法則は「慣性の法則」、第2法則は「運動方程式」、第3法則は「作用反作用の法則」と呼ばれている。また、質量と重さの違いについても解説する。				
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む			約2時間
8. 斜面上の運動・摩擦力				
斜面の上に置かれた物体には重力の斜面方向への分力が作用する。このような斜面上に置かれた物体の運動について解説する。また摩擦力に関しても説明した上で、摩擦が無視できない斜面上に置かれた物体の運動について解説する。				
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する			約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む			約2時間

○授業計画		科目名	力学リテラシー（Introduction to Phsics）	授業コード	A032404
		担当教員	池畑 義人、有吉 雄哉、池見 洋明、家舗 真衣		
学修内容					
9. 仕事					
力学で使われる「仕事」という言葉は、物体に及ぼした力と、力を作用させた距離を掛け合わせたものに対して使用する。この仕事の定義について説明し、その過程で仕事についての説明に必要なスカラー積（内積）についても解説する。					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む				約2時間
10. 仕事と運動エネルギー					
動いている物体は運動エネルギーという物理量を持っている。運動エネルギーと仕事の関係もニュートンの第2法則から導出される。この運動エネルギーの計算方法とその性質について学ぶ。					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む				約2時間
11. ポテンシャルエネルギー					
地上で物対を重力に逆らって持ち上げると、その仕事量が位置エネルギーに変換される。この位置エネルギーの計算方法とその性質について解説する。					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む				約2時間
12. 力学的エネルギー					
前回の2回の講義で、仕事、運動エネルギー、位置エネルギーについて学んだ。運動エネルギーと位置エネルギーは力学的エネルギーと呼ばれるが、この2つのエネルギーを用いれば物体の運動を解説することができる。このような力学的エネルギー保存の法則について学習する。					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む				約2時間
13. 運動量					
力学の第2法則から運動量と呼ばれる物理量が導出される。この運動量について解説して、次の運動量保存の法則に備える。					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む				約2時間
14. 運動量保存の法則					
運動量保存の法則は力学の解析によく用いられる。この運動量の保存について物体の衝突を例に解説を行う。					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む				約2時間
15. 剛体の回転とトルク					
剛体とは、これまで扱ってきた質点とは異なり大きさを持つ変形しない物体を指す。この剛体が回転するときの作用である力のモーメントについて解説する。					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習	今回の講義で扱った教科書の演習問題を解答する/課題に取り組む				約2時間
16. 期末試験					
第15回分の小テストを行う					
予習	前回の講義で指定した教科書の演習問題を解答する				約2時間
復習					